

福音メッセージ 悲しみは笑いにまさる

伝道者の書 7章

- 1 名声は良い香油にまさり、死ぬ日は生まれる日にまさる。
- 2 祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。
そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。
- 3 悲しみは笑いにまさる。顔が曇ると心は良くなる。
- 4 知恵のある者の心は喪中の家にあり、愚かな者の心は楽しみのある家にある。
- 5 知恵のある者の叱責を聞くのは、愚かな者の歌を聞くのにまさる。
- 6 愚かな者の笑いは、鍋の下の茨がはじける音のよう。これもまた空しい。
- 7 虐げは知恵のある者を狂わせ、賄賂は心を滅ぼす。
- 8 事の終わりは、その始まりにまさり、忍耐は、うぬぼれにまさる。
- 9 軽々しく心を苛立たせてはならない。苛立ちは愚かな者の胸にとどまるから。
- 10 「どうして、昔のほうが今より良かったのか」と言うてはならない。このような問いは、知恵によるのではない。
- 11 資産を伴う知恵は良い。日を見る人に益となる。
- 12 知恵の陰にいるのは、金銭の陰にいるようだ。知識の益は、知恵がその持ち主を生かすことにある。
- 13 神のみわざに目を留めよ。神が曲げたものをだれがまっすぐにできるだろうか。
- 14 順境の日には幸いを味わい、逆境の日にはよく考えよ。
これもあれも、神のなさること。後のことを人に分からせないためである。
- 15 私はこの空しい人生において、すべてのことを見てきた。
正しい人が正しいのに滅び、悪しき者が悪を行う中で長生きすることがある。
- 16 あなたは正しすぎではならない。自分を知恵のありすぎる者としてはならない。
なぜ、あなたは自分を滅ぼそうとするのか。
あなたは悪すぎではいけない。愚かであってはいけない。時が来ないのに、なぜ死のうとするのか。
- 18 一つをつかみ、もう一つを手放さないのがよい。神を恐れる者は、この両方を持って出て行く。
- 19 知恵は町の十人の権力者よりも、知恵のある者を力づける。
- 20 この地上に、正しい人は一人もいない。善を行い、罪に陥ることのない人は。
- 21 また、人の語ることはをいちいち心に留めてはならない。
しもべがあなたをののしるのを聞かないようにするために。
- 22 あなた自身が他人を何度ものしったことを、あなたの心は知っているのだから。
- 23 私は、これらの一切を知恵によって試みた。
私は言った。「私は知恵のある者になりたい」と。しかし、それは私には遠く及ばないことだった。
- 24 今までにあったことは、遠く、とても深い。だれがそれを見極めることができるだろうか。
- 25 私は心を転じて、知恵と道理を学び、探し出し、探し求めた。愚かさの悪と、狂気の愚かさを知ろうとした。
- 26 私は、女が死よりも苦々しいことに気がついた。女は罾であり、その心は綱、その手は、かせである。
神に良しとされる者は女から逃れるが、罪に陥る者は女に捕らえられる。
- 27 伝道者は言う。見よ。私が道理を見出そうとして、一つ一つに当たり、見出したことは次のとおりである。
- 28 私のたましいは、なおも探し求めたが、見出すことはなかった。
私は千人のうちに、一人の男を見出したが、そのすべてのうちに、一人の女も見出さなかった。
- 29 私が見出した次のことだけに目を留めよ。
神は人を真っ直ぐな者に造られたが、人は多くの理屈を探し求めたということだ。

I. 希望への道

1. 名声は良い香油にまさる (人は人を飾り立てるものにまさる)

- 名前: その人の本質を表す (アダム、アブラハム、イサク、ペテロ…)
- 香油: 持ち物、資産、地位を表す (外見、学歴、所有物…)
- すべてが取り去られても、あなたはあなた
- イスカリオテのユダ(「賛美」) イエス・キリストから離れて希望なし



光生舎創業者 高江常男氏

2. 死ぬ日は生まれる日にまさる(朽ちるいのちから朽ちないいのちへ)

- 死後の世界を否定できない
 - (1) 臨死体験 (2) 人間に備わった道徳性 (3) イエス・キリストの奇跡と復活
- 労苦からの解放 「工事完了、忍耐感謝」(ルース・グラハム)
義 End of Construction. Thank you for your patience.
- キリストに会う喜び



ルース・グラハム夫人の墓

3. 悲しみは笑いにまさる(つらい現実をともに担われるキリスト)

- 水野源三「悲しみよ、ありがとう」

コリント人への手紙第二 7:10 神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。

4. 知恵ある者の叱責は愚かな者の歌(称赞)にまさる

5. 事の終わりは始まりにまさる

6. 忍耐はうぬぼれにまさる



「瞬きの詩人」水野源三さん

II. 神を信頼する生き方

1. 「昔のほうが今より良かった」(10 節)

- 今を生きることの大切さ(過去は戻らず、未来は不確実)

ピリピ人への手紙 3:13, 14 なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです。(新共同訳)

2. 神が曲げたものをまっすぐにしてはならない(まっすぐにはできない)(14 節)

- (予知、予防が不可能な)自然災害 “Act of God” 「神は全能の力を制限されている」(河村従彦)

3. 正しすぎてはいけない(16 節)

- 愛と憐れみ

4. 悪すぎてもいけない(17 節)

- 自分を滅ぼす point of no return 引き返し限界点

5. 人の評価を気にしてはいけない(21 節)

- 何をしても批判する人は必ずいる

6. 神は人を正しい者に造られたが、人は神に従わない理屈をこねる(20,26,29 節)

- 人は神のようになろうとするが、神である方が人となってくださった

伝道者の書 3:11 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。